

## もういくつ寝るとお正月？！

季節は、すっかり冬になり、朝晩は震える寒さになってきました。朝、布団の中から起きるのが大変なのではないでしょうか。

1年で一番長い2学期も、今日を入れてあと10日間となりました。学校では、2学期のまとめを行っているところです。子供たちにとっては、これから、クリスマスやお正月など楽しい行事が待ち構えています、また、今年度は、冬休みが17日間もある年です。それでも子供たちにとってはあっという間の冬休みということになると思いますが、保護者の皆様は、いろいろと忙しくなることでしょう。

冬休みは、ぜひ、子供たちには「家族の一員」としての自覚を持たせる機会になればと考えます。大掃除で自分の机や身の回りを掃除するだけでなく、学年に応じて、何かのお手伝いを継続的にできるといいですね。また、祖父母宅に帰省される方も多いと思いますが、くれぐれも体調にはお気を付けいただき、元気に3学期を迎えたいですね。

## 避難訓練（不審者対応）を終えて

少し前のお話になりますが、11月25日（金）に避難訓練として、「不審者対応」の訓練をしました。海田警察署の協力を得て、夏休みに先生方だけで行った第1回目の訓練をもとに、今回は、児童とともに実施しました。保護者の皆様は、2001年に発生した「大阪教育大学附属池田小学校」での無差別大量殺人事件を御存じでしょうか？小学1・2年生8名が殺害され、先生を含む15名が負傷した大変残忍な事件です。当時、小学校で勤務していた私も、大変なショックを受けたことを覚えています。この事件以後、学校の正門等を閉めたり、防犯カメラが設置されたりするようになりました。学校でも、毎年、不審者対応の訓練を行っています。

今年、2度にわたって訓練をしたのは、若い教員も多くなり、この悲惨な事件が忘れられてはいけないと考えたからです。先生方も真剣に訓練を実施し、その後反省点を出し、改善できることはすぐに改善しています。

そこで、保護者の皆様にも御協力をいただきたいことがあります。私たちが一番恐れているのは、「保護者のふりをして」学校内に立ち入る犯罪者が出てこないかということです。近年のコロナ禍の影響で、マスクをしているため、教員も保護者の顔をすべて把握できていません。そのため、保護者かどうかを確認する必要があります。

### 【保護者の皆様へのお願い】

- ① 学校敷地内に入る場合は、必ず「ネームプレート」をつけて入っていただく。  
※ 忘れ物を届けたり、児童クラブの送迎、参観日で来校する場合などすべてです。
- ② 校舎内に入る場合は、事務室か職員室に、お声かけをしていただく。
- ③ 事務室や職員室を通った場合でも、校舎内で職員が「何のご用事ですか？」とお声かけをする場合があります。

最近、以上のことが徹底できていない来校者が増えており、校長として安全確保が不十分だと考えています。保護者の皆様には、大変な御面倒をおかけすることになりますが、子供たちの安全のため、御協力をいただけますようお願いいたします。

# ニュース5・7・5

本日までに、33句の応募がありました。ちょっと応募が減ってきており、残念です。今回は、次の4句を中国新聞に応募し、校内にも掲示します。

どんぐりを	たくさんひろう	楽しいな	3年	<small>まつもと</small> 松本	<small>ゆい</small> 結愛
12月	クリスマスがね	やってくる	3年	<small>いしはら</small> 石原	<small>ゆうご</small> 悠伍
雪がふり	こたつでポカポカ	あったまる	4年	<small>なかつ</small> 中津	<small>ゆう</small> 悠
朝が来る	ふかふかふとん	出たくない	6年	<small>とよた</small> 豊田	<small>さな</small> 紗菜

## 衛生チェックのお願い

今号は、お願いばかりで恐縮です。

このところ、児童の様子を見て気になることがあります。それは、ハンカチ、ティッシュなどの持ち物を携帯していない児童がいること、手指の爪が長い児童が多いことです。コロナウイルス感染症だけでなく、インフルエンザ、様々な感染症を防ぐには、手指を清潔にしておくことは大変重要です。ハンカチは、毎日新しいものに交換し、清潔なハンカチを使用してほしいものです。また、爪が長いと、自分自身や他人に爪が引っ掛かり、爪が剥がれたりケガをしてしまうことがあります。また、爪の裏には多くの雑菌が繁殖する可能性があります。

学校でも、担任が指導しておりますが、各家庭でも、ハンカチ、ティッシュの持ち物、爪の長さのチェックをしていただきますようお願いいたします。

## 校長の真面目な子育て日記②⑤

先日、「広島県小学校教育研究会健康教育部会研究大会」に参加し、講演で、竹下和男さんのお話を聞きました。竹下さんは、香川県の元校長で、「弁当の日がやってきた」の著書で有名です。小中学校の児童生徒が、材料を買うところからすべて子供が行い、学校の「お弁当の日」に子供が1人でお弁当を作ってきて食べるという取組行っておられました。子供の自立を目指して始められたのですが、次第に子供の食生活についても保護者に考える機会を与え、全国の学校内外に大きな影響を与えた方です。そのお話の中で、気になったのは、「子供の味覚は、小学校で決まる」というものです。児童養護施設で育った子供を養子として引き取った方が、一生懸命料理をして食べさせても、「おいしくない」と言う。「お母さんの味ではない」と言う。あるとき、コンビニを見つけ、コンビニ弁当を食べさせてほしいと言うので買って食べさせると「ああ、お母さんの味だ」と言って、むしゃぶりついたそうです。我が家も決して豪華な食事を出しているわけではありませんが、子供が「家庭の味」として、味覚に覚えるのは、小学校時代の食事が大きいと聞き、はっとさせられました。そういえば、料理が大の苦手だった私の母ですが、化学調味料も入った「おでん」と「雑煮」でも、母の作ったのが一番おいしいと感じている自分がいます。小学生時代に食べた食事の影響は、一生ものなのです。そう考えると、「食事を作る」ことの大切さと影響をつくづく考えさせられました。毎日食事を作るのは大変ですが、子供たちの味覚に残るものとして、我が家でも頑張っていこうと話したところです。頑張りましょう！！